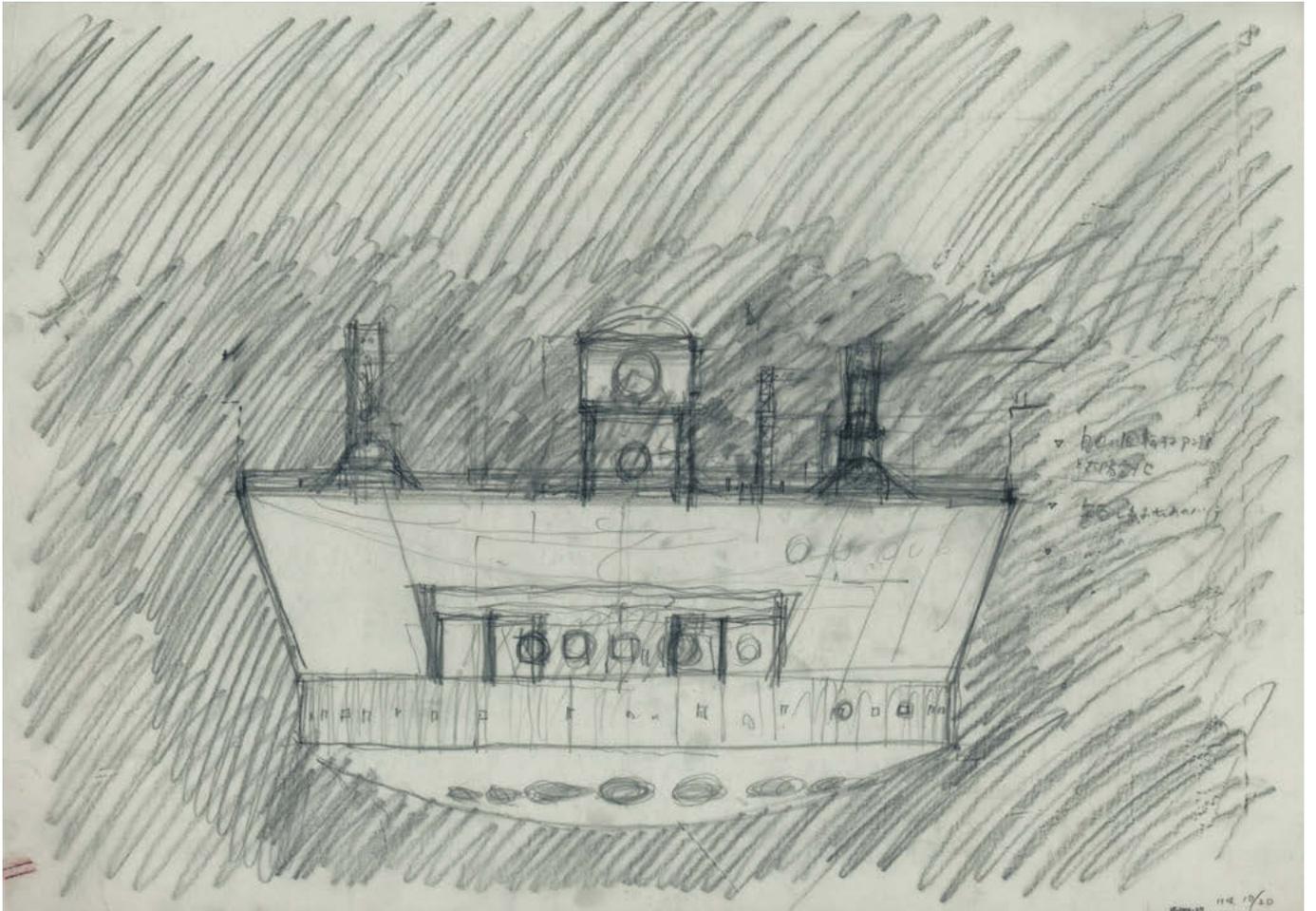


## 原広司+アトリエ・ファイ建築設計資料

### スケッチを通じて、建築思考に具体的な形を与える

「原広司 建築に何が可能かー有孔体と浮遊の思想の55年ー」[2022年12月13日(火)~2023年3月5日(日)]では、原広司の広大かつ深遠な建築世界を、代表作の図面の展示を通して経年的に紹介するだけでなく、思考を建築化する過程を示すスケッチを数多く展示した。それにより、思考に具体的な形を与える過程がわかるような展示をめざした。ここでは、3点を紹介する。

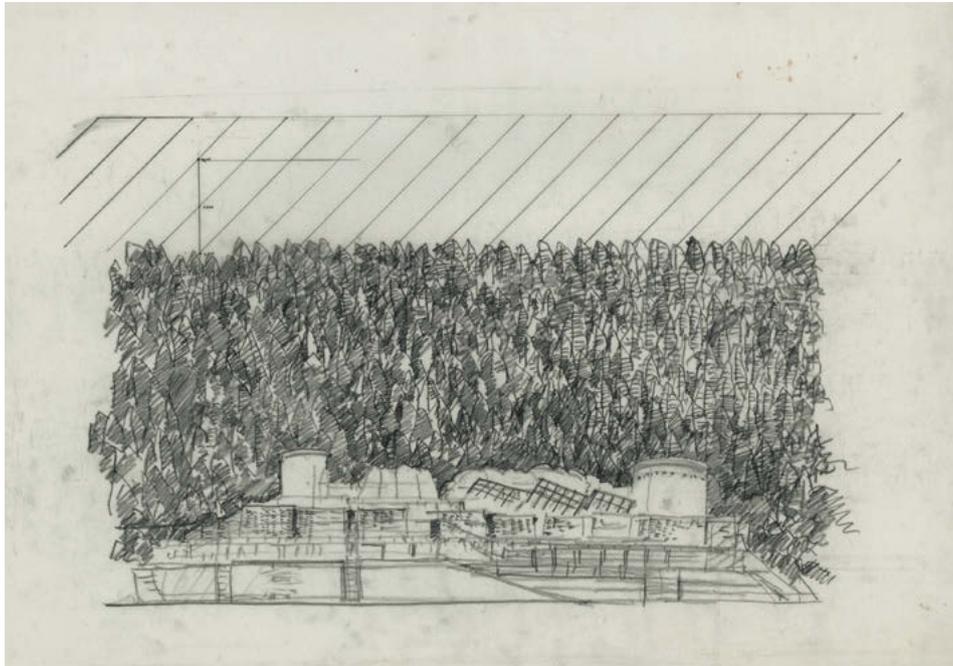


新梅田シティ・スカイビル (1993 大阪市北区) の頂部スケッチ

1992.10.20 | 鉛筆、トレーシングペーパー | 422×595

連結超高層建築として知られる新梅田シティ・スカイビルの頂部の空中庭園において、中央のヴォイド空間を、どのような形に割り貫くかをスタディしているときのスケッチである。円錐体の一部で割り貫かれたヴォリュームは、ヴォイド空間ではなく、空中を漂う円盤のような姿に変貌した。思考の意外な展開を示す、ファンタジーに満ちたスケッチである。

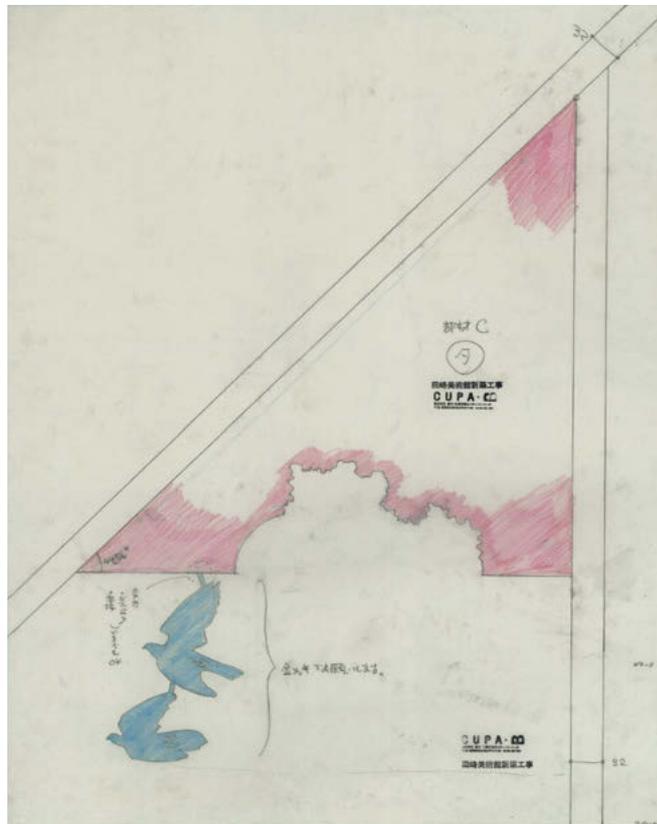
## NAMA's Collection



内子町立大瀬中学校（愛媛県喜多郡内子町）の立面検討スケッチ

1992 | 鉛筆、トレーシングペーパー | 593×838

原の友人である小説家・大江健三郎の故郷の愛媛県で実現した中学校の初期のスケッチである。最終的なデザインに見られる要素が、早々に構想されている。この中学校は、大江健三郎の小説『燃えあがる緑の木』（1995年）の中で、舞台のひとつとして登場する。



田崎美術館（長野県北佐久郡井沢町）の詳細デザインを描いたスケッチ

1986 | 鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー | 827×663

この美術館では、手すりや壁面ニッチ内のパネルデザインなどに、フラクタルな形態と鳥などの生き物を組み合わせた細部デザインが多くみられる。それらの細部の形態も、原自身が原寸に近いサイズのスケッチを描いて決定している。こうした作業を経て、思考は、細部形状にまで染み渡る。

こどもの国建築関連資料

令和4年度収蔵品展「こどもの国」のデザイン——自然・未来・メタボリズム建築にて展示



こどもの国案内図

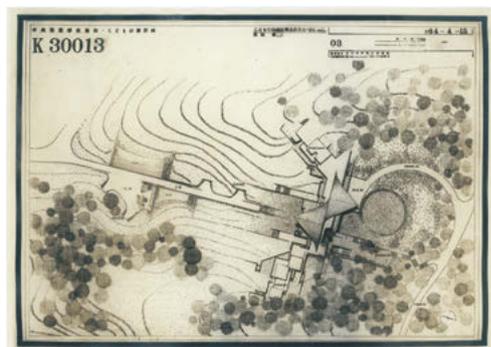
1:300 | 青焼 | 516 × 420 | 1966年資料を一部加工

浅田孝によるマスタープラン。青焼でどのファイルにも挟み込まれており、計画中の建物の位置が色鉛筆で書き記されていた。建設が叶わなかった大高正人による修学旅行会館（図面内「ホステル 予定」箇所）、大谷幸夫による児童館（図面内「児童館 予定」とあり、それぞれ提案していた建築のデザインが反映されている。「林間学校 予定」では、最終形態を変えて実現しているが、書き込まれている検討中図面は菊竹資料群より展示された。



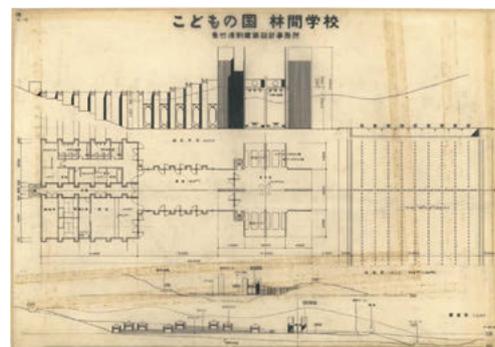
児童館 1964

大谷幸夫 | 実現せず | 鳥瞰図 | 青焼 | 593 × 448  
OTANI Sachio | Unbuilt | Bird's Eye View | Blue Print



修学旅行会館 1964

大高正人 | 実現せず | 配置図 | 1:500 | プリント | 420 × 591



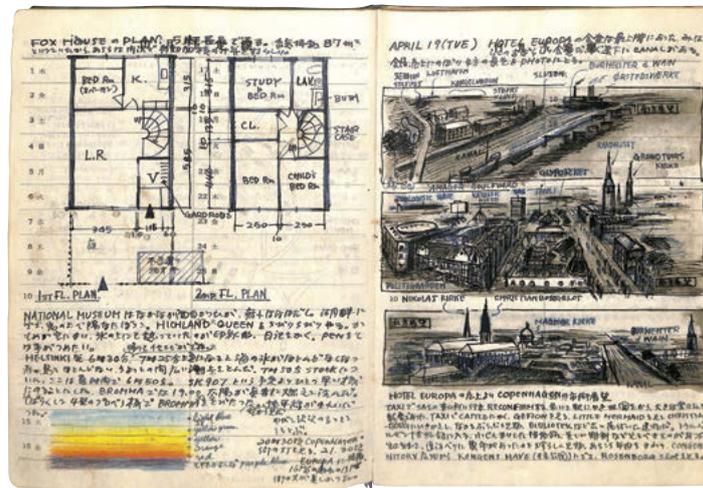
林間学校 1967

菊竹清訓 | 現存せず | 初期のイメージ・ドローイング | 鉛筆、絵具、トレーシングペーパー | 454 × 720

角田栄資料

令和4年度収蔵品展「こどもの国」のデザイン——自然・未来・メタボリズム建築・  
[併設] 新規収蔵資料紹介にて展示

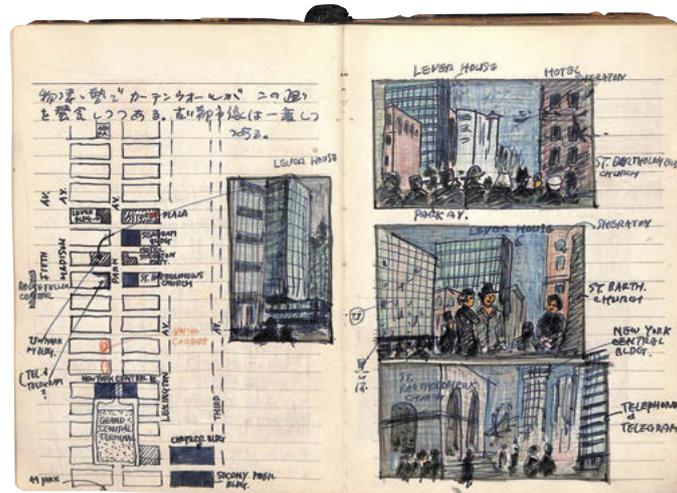
角田栄(1913-1993)は戦後、1958年アジア競技大会に合わせて建設された旧国立競技場を、建設省関東地方建設局管轄部第一課長として設計を担当した中心的人物である。これらは1964年東京五輪施設建設のための海外視察時の日誌や写真アルバム、聖火台、競技場内の装飾等が描かれているスケッチブックの一部である。日本で初めてのオリンピックに向け、刻々と海外の状況を記そうとする熱が伝わってくる。角田の人物像とともに東京五輪に向かう時代の社会状況および建築文化を伝える資料となっている。



1964年東京五輪施設建設のため海外視察、日記・メモ(1960-2)

1960 | インク、色鉛筆、紙 | 265 × 180 × 10

左頁：FOX HOUSEの平面図、そしてイギリスからヘルシンキへ旅立つ機内でみた空景色のきれいな書き残している。右頁：(1960年)4月19日(火)の記録。コペンハーゲンの宿泊先、HOTEL EUROPAからの展望。その日の訪問先が細かく書き残されている。



1964年東京五輪施設建設のため海外視察、日記・メモ(1961-2)

1961 | インク、色鉛筆、紙 | 200 × 135 × 15

「物凄い勢いでカーテンウォールがこの通りを蚕食しつつある。古い都市像は一変しつつある。」ニューヨークのマンハッタン、パークアヴェニューの49thから51stストリートにかけての記述。Lever House(1952年、マンハッタンで初めて建てられたカーテンウォール工法の高層ビル)の近隣を含めて描かれた数々のスケッチ。